

は平均して前 6 秒、後 17 秒、(最大は前 52 秒、後 51 秒)の間見られた。

本影雖は 16 人によって観測され、写真撮影をしたのは 6 人、内 2 人は全天カメラである。

シャドーバンドを注意したのは眼視は 4 名、外に 3 名が映画および写真を使ったが、いずれの場合もシャドーバンドは認められなかった。これらの外に、空の明るさや色、星の見え方、気象観測などの報告がある。本集ではこれらの報告を各地区別に、代表的なものはかなりくわしく再録してあり、通読してなかなか興味あるものがあった。日本でしばらくはみることができなくなる皆既日食のわずかな貴重な時間を、日本のアマチュア諸君がもてる器材と意欲を傾けて立向った姿が、どの頁にも充ち充ちていて、楽しくかつ頼もしい限りである。(下保)

(53 頁より) 日周変化と年周変化の分離には昼夜観測をするか、少なくとも 12 時間連続した観測をしなければ赤緯誤差と重り合う日周、年周変化の分離は不可能にな

る。

8. むすび

ILS の当面する問題点を上げ IPMS を発展させる方針を検討してきた。局地誤差を観測所の増減による x, y の変化から決定するには問題があり、今後発表する極運動座標には必ず $(O-C)$ や $p.e.$ をつけて精度の比較ができるようにしておくのが望ましい。観測所を新設する場合、できるだけ既存の観測所と同緯度にあるよう考慮すべきである。星表誤差の決定は子午環観測を強化継続することが有効で、とくに独立観測所にとって必要なことである。観測機械の自動化によって昼夜観測を行なえば、極運動によらない地球物理学的現象の解明に役立つ。極運動のように全地球の運動は機械の精密化によって得られるという考えと共に、強力な国際共同観測を押し進めることを計画すべきである。IPMS がさらに強力な国際共同極運動観測事業となつてこそ時代の、学問の要求する“地球の自転”問題を解く真の鍵を与えてくれるであろう。



新発売!!

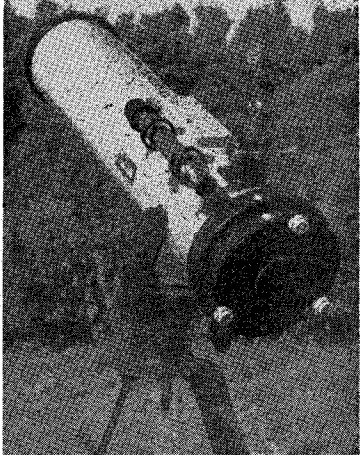
普及型
10センチ 反射望遠鏡 (経緯台)

※口径 100 ミリ ※焦点距離 900 ミリ ※倍率 72 倍 ※アイピース 12.5 ミリ 1 個 ※接眼部ラックピニオン付、上下微動装置完備 ※木製三脚 ※水平微動付 3,000 増

- 超特価 18,500 円 円 1,500 円
ファインダー付 (口径 30 ミリ 6 倍) 2,400 円増
- 8cm 簡易赤道儀 特価 9,800 円 円 1,000 円

皆様の工作室「清原光学」が、すばらしい新型を発売しました。性能価格共に絶対に他社の追随を許しません。光学部品は標準型と同じですから最高の見えの良さを保証いたします。その他、自作用部品もありますからご相談下さい。
(切手 10 円 2 枚同封)

東京都新宿区東大久保 2-271 振替東京 8643
清原光学研究所



◎ カンコー天体反射望遠鏡

二十糎 C G 式 焦点距離 二段切換
天体反射望遠鏡

- ★ 天体望遠鏡完成品各種
- ★ 高級自作用部品
- ★ 抛物面鏡、平面鏡、軸外し抛物面鏡
- ★ アルミニウム鍍金
- ★ 電源不要観光望遠鏡 (カタログ要 30 円切手)

関西光学研究所
京都市東山区山科竹鼻 TEL 京都 09 0057

昭和 40 年 2 月 20 日
印刷発行
定価 70 円(送料 6 円)
地方売価 75 円

編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内
印刷所 東京都港区芝南佐久間町一ノ五三
発行所 東京都三鷹市東京天文台内

広瀬秀雄
笠井出版印刷社
社団法人 日本天文学会
振替口座東京 13595